

五味 俊仁

静脈は、動脈によって臓器に送り込まれた血液を心臓に戻す働きをしています。人間は立って生活しているの

で、足の静脈には重力に逆らって血液を下から上へと送るという特別な働きがあります。静脈の中には静脈弁

があり、血液が心臓に向かって流れる時だけ開き、血液の逆流を防いでいます。静脈弁は非常に薄く壊れやすく、この弁が壊れると、血液が逆流してその下にある静脈に血液がたまってしまいます。血液がたま

った状態が何年も続くと徐々に静脈の壁が引き延ばされ、太く曲がりくねった状態になります。この状態が「下肢静脈瘤」です。

足がだるい・むくむ 下肢静脈瘤は良性の病気なので、急に悪化する心配は少ないです。

数人は1000万人以上と推計されます。出産経験のある女性のおよそ半数が発症するというデータもあり、実は身近な病気なのです。

し、命に関わったりするものではありません。しかし、足のだるさ、むくみなどの症状が慢性的に起こり、生活の質を低下させます。

下肢静脈瘤の症状はほとんどがふくらはぎに起こります。足に血液がたまることによって起こるので、午後から夕方

に症状が強くなるのが特徴です。下肢静脈瘤は40歳以上の女性に多く、年齢とともに増加していきます。40歳以上の8・6%に認められ、患者数は1000万人以上と推計されます。

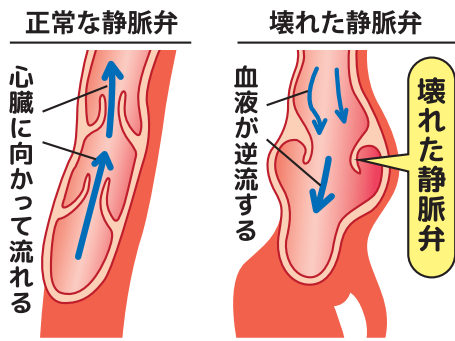
下肢静脈瘤の治療には、大きく分けて保存的治療、硬化療法、手術、血管内治療の4つがあります。静脈瘤のタイプや患者さんの状態によって適切な治療法を選びます。

このうち血管内治療は、「血管内焼灼治療」と「血管内接着材治療」の2種類があります。血管内焼灼治療は、細い管（カテーテ

心臓血管外科副部長、心臓血管センター科長、フットケアセンター科長

長川専門は心臓血管外科

下肢静脈瘤



40代以上の女性に多い身近な病気

ルを病気になった静脈の中に入れ、内側から熱を加えて静脈を焼き、ふさぐ治療です。これに対し新しい治療法である血管内接着材治療は、医療用接着材を血管内に注入して血管をふさぎます。血管内焼灼術には欠かせない局所麻酔が不要になるため、針を刺す回数も痛みも減ります。日帰りで治療ができる体への負担が少ない治療法です。

下肢静脈瘤の治療が必要な場合は、うつ滞性皮膚炎が起きている場合、静脈瘤による症状があらわな場合、外見が気になる場合です。まずは信頼できるかかりつけ医に相談してください。